

JR東労組 大宮

2024年3月21日 第279号

〒330-0853 埼玉県さいたま市大宮区錦町630
電話 048-643-6655 FAX 048-631-1441
JRTEL 054-5844-5 JR FAX 054-5846
email: omiva-chihon@ireu-omiva.jp

発行人 川澄 新一 編集人 小宮 裕幸



JR東労組大宮地本の
ホームページは
←こちらからアクセス

東日本旅客鉄道労働組合 大宮地方本部

JR東労組大宮地本 第24回定期委員会を開催!

2024年2月18日
さいたま市文化センター



主催者あいさつ (要旨)

JR東労組大宮地方本部

川澄執行委員長

定期委員会に参加いただきました皆さん、大変ありがとうございます。大宮地本は、いま多くの課題に直面しています。そのような大変な時だからこそ、私たちが「何を指してたたかうのか」ということをハッキリさせて実践していきましょう。

まもなくダイヤ改正で、大きな基地再編を迎え大宮地本から多くの組合員が他地本へ異動します。新たな地でたたかう決意をした仲間がいます。一方で、大宮からリーダーや組合員が抜け組織力は下がります。それを私たち一人一人が実践を通じて埋められない限り、今の熾烈な攻撃に抗する事はできません。問われるのは、私たちの決意と実践です。その事を明確にし、たたかい抜くスタートの委員会にしたいと考えます。よろしくお願ひ致します。

まず1点目は、大宮運転区の不当処分。不当転勤撤回に向けたたたかいです。私たちは、あらためて何が不当なのかという事を明確にして職場で語っていかねれば、会社の隠ぺいと捏造がまかり通ってしまいます。当日「休日出勤したのに変形日勤があるなら帰ります」という当人に対して、会社は「わかった」と認めています。そして、その後本人に謝罪した事を見れば、発生時に会社は管理の問題を認識していた事が分かります。それが、ある時を境に全て本人の責任で、一切会社は問題がないと変化します。これがなぜなのか。誰の意志なのか。考えなければなりません。多くの連帯や怒りの声が大宮地本へ寄せられています。その力をもってたたかい抜いていきます。

また、もう一つの課題は休日出勤に対する私たちの意識です。休日出勤が余りにも多過ぎて当たり前になってしまっているのではないかと。休みの日にさえ十分に休めない、異常時に安全を守れないような職場体制には、労働組合として声を出していかなければなりません。これまでの議事録確認もあるので、それらを武器に職場から実践することが重要です。

不当労働行為は、認めただけが処分され、嘘をついて虚偽の報告をしている人が不問になっていきます。断じて許す事はできません。組合の悪宣伝をでっち上げて、我々を落とし入れようとする者を許さずたたかい抜きます。また、宇都宮運輸区の懲罰的日勤教育によるパワハラ労災も同様に、苦しんでいる仲間の想いに立ち具体的に実践していかなければなりません。

2点目に24春闘です。ベア方針が定期中央委員会で確認されましたが、今の日本の状況を見ると、春闘という言葉さえほとんど使われないような状況です。それは、たたかわずに「協創」とされ運命共同体のように描き出されていますが、私たち労働者と資本家つまりJR東日本会社というの是对立している。これが資本主義社会の前提です。対立している相手とは、お互い真剣にたたかわなければなりません。スポーツでも何でもそうですが、それが話し合いでたたかわずして解決されるのは「八百長」です。我々は「八百長春闘」を行うつもりはありません。JR総連に結果する仲間と共に、24春闘を文字通りたたかい抜きます。その中で、この「話し合い」を率先して担い、会社幹部に育成されている社友会の問題についても、職場から議論を創り出していきます。

あらためて労働組合の必要性が求めら

れる中で「労働組合とはなにか」を考えたいと思います。ここで2021年という最近に、岩波新書から出ている『労働組合とは何か』という本を紹介いたします。ここでは「私たちが働き方を決められるのは、会社と交渉する労働組合だけだ。だから、労働使が交渉し対立し、そして妥結する。この労働使自治のフィールドでこそ働き方は決められる。しかし日本では労働組合の力は極端に弱くから、経営者のやりたい放題になっている」と言われています。いまの働き方の問題点を変えられるのはJR東労組しかない事を明確にして、更なる組織拡大に向けて取り組んでいきましょう。

また組織問題も発生しています。そして、平和や政治問題についても触れなければいけません。共通して私たちに問われているのは真実は努力しないと見えなくなっているという事です。連日自民党が批判されていますが、なぜここまで批判されているのか。いまの自民党の支持率低下が、私たち国民にとって良い方向に向くのか。非常に大きな流れのもと、大きな仕掛けが動いているような気がしてはなりません。過去にも、政権交代で国民の目先を変え、戦争への政策が大きく進んだ過去を忘れてはいけません。私たちの子どもたちの世代が、戦争に行くような未来と対決し、今ならまだ反対できるときです。19行動など、大変ですが積み上げていきたいと考えています。

これまで述べたように、いま多くの課題に直面していますが、やはりたたかいたのスタートは怒りだと思っています。自分はその怒りに怒っているのかが問われています。本日の定期委員会の中で、皆さんとその怒りを一致して断固としてたたかい抜いていきましょう。

委員発言(要旨)

職場でたたかう
仲間から力強い発言!

①24春闘勝利に向けたたたかい

◆JR総連として12000円のペー
スアップ要求が決まり、支部として要
求満額を勝ち取るため、本部激励行動
や短冊行動を取り組んでいく。決して
一部会社経営陣の論功行賞で会社の業
績が良くなったわけではなく、現場で
汗して苦勞している社員・組合員がい
てこそ会社の業績が良くなった。

◆24春闘において未加入者向けに意
見交換会を開催し、多くの未加入者に
参加してもらえた。「年末手当時の社友
会アンケートは聞いた事もやったこと
もない」「ペーペースアップと期末手当を同
時議論する事はおかしい」などの意見
が出された。意見を出してくれた未加
入者に対して継続的な関わりを続け、
再加入へと繋げていく。

②組織強化・拡大に向けたたたかい

◆同期を中心に多くの組合員が飲み会
や趣味の遊びを通じた関わりを通じ、
再加入を勝ち取った。給与に見合わな
い業務量である事や、正しい事を行う
人を切り捨てる事など、現場の意見を
全く聞かない会社に納得ができないか
らこそ加入を決断した。

◆個人の関わりだけでなく、組織的に
関わり再加入を勝ち取った。分会でミ
ーティングを開催し、掴んでいる事や
行き詰まっている悩みを出し合い、本
音で議論してきた。

◆職場で再加入を勝ち取った。この間

敢えて強く再加入を求めるやり方は行
ってこなかった。過去に後輩から相談
があり、自分の想いを押し付け、相手
の気持ちを汲み取ろうとしていなかっ
た結果、後輩は会社を退職してしまっ
た。この事を反省し、今回の行動に繋
げた結果成果に繋がった。

◆この間支部として運動を運動として
こなし、再加入の取り組みも決意主義
になってしまっていた。春のたたかい
では「人を置いた運動づくり」をテー
マに、対象を明確にして運動を創って
来た。その成果として支部執行部が多
くの実践をしている。自分とのたたか
いでこだわりを持った運動を創る。

◆昨年の地本大会以降、支部として4
名の組織拡大を実現させた。再加入の
取り組みに失敗しても下を向かず、あ
えて失敗をレポートにし、全体化する
事で支部組織として一步を踏みだして
きた。この取り組みから組織としての
取り組みに高めていくことを意識し議
論してきた。

◆再加入した仲間の根底にあるものは、
会社姿勢への否定感と安全を軽視する
営利優先体質への否定感である。

◆JR東海労の組織問題について、組
織議論なしに一方的にグループ会社内
に労組を結成し、組合員を引き回すこ
とは許せない。

③業務課題 施策検証のたたかい

◆職場の体制変更・再編が行われる中
で、ジョブ異動も希望が叶わなくても
仕方がない空気感があり、異動につい

て分会に相談されない分会になってい
る雰囲気を変えようと組合員と向き合
ってきた。自分の想いを会社に伝える
実践を積み上げ、それを支える組合員
と共に創り出し、ラストランやセレモ
ニーにおいて「結果は変わらなかつた
が東労組の組合員で良かった」と話し
てもらえた。

◆他地本の仲間と相談しながら基地再
編による新分会の結成準備を進めてい
る。しかし新職場への異動希望を出し
ていた多くの役員は異動できなかった。
基地再編を通じ東労組運動の強化をさ
せない会社の狙いが明らかだ。会社の
攻撃や狙い・危機感を一致させるため
にミーティングを開催し、新分会確立
から跳ね返そうと決めてきた。すぐに
副分会長が動き、対象者と議論して新
分会の執行委員を決意してくれた。

◆他支社の駅で、線路内落とし物取得
作業を行う際に汽笛吹鳴を受ける取扱
い誤りが連続発生した。誤りに対し根
本的な対策が立てられていない。

◆他支部の教訓から、支部として基地
再編のプロジェクトを立ち上げ1年前
から議論を進めてきた。解明交渉では
会社説明会では出されなかった回答が
出され、すぐに掲示板で周知できた。
労働組合だからこそ出来たし、会社と
の違いを鮮明にすることが出来た。

◆安全文化の再確立に向け、原因究明
委員会を定着させてきた。支部執行部
の事象についても、業務部が中心とな
り支部内で原因究明委員会を開催。

④会社姿勢に抗するたたかい

◆大宮運転区における不当処分・不当
転勤は目の前で起きている事について
みんなで話し合う事からたたかいが創
れなかった。処分を出させてしまい、
組合員を守れなかつた悔しさと会社に
対する怒りで行動をしてきた。

◆分会長が異動となった。本人希望・
家庭環境などの都合を配慮せず、異動
は成長に繋がると話された。完全に異
動ありきで、東労組破壊以外に考えら
れない。組合員の怒りから過半数代表
者選挙に勝利した。おかしいことには
おかしいと言える職場を作るために、
組織強化・拡大を目指していく。

◆職場内で個人を絞った脱退策動が行
われていた。腐敗した職場になったこ
とを実感し、このような職場にしてし
まった責任も感じている。2名の管理
者は、事実を認めず、嘘をつき逃げ切
ろうとしている。絶対に許せない。

◆私たちが忘れてはならない事故の一
つに福知山線脱線事故がある。当時の
JR西日本会社が行っていた労務管理
の一つである懲罰的日勤教育を恐れ、
車掌や指令とのやり取りに注意が傾き、
速度超過でカーブに進入した事から事
故が起きた。まさに会社の労務管理が
引き起こした人災である。人間破壊や
不当労働行為を行った一部社員を守る
会社、大宮運転区における当該組合員
への一方的な処分はまさにJR西日本
会社と変わらぬ、それ以上の会社にな
っていると思う。

総括答弁(要旨)
J R東労組大宮地本
唐紙書記長

大宮運転区で発生した不当処分に対し多くの委員から怒りの発言がありました。分会の当該組合員に徹底して寄り添う行動によって、当該組合員は「一人ではない仲間がいる」ことを実感しています。理不尽極まりない不当処分に組合員だけではなく、未加入者も怒りの声を上げています。当該組合員は怒りの緊急集会で副長の「分かった」という言葉を一生忘れることはできないと言っています。会社の嘘のシナリオを暴露し、不当処分と不当転勤の撤回を求めていきます。懲戒権の濫用と東労組への嫌悪感をむき出しにしたJR東日本会社に対し、ありとあらゆる手段を活用し徹底してたたかいます。

小金井運転区で発覚した不当労働行為は、申11号で議論し5名中3名の副長が不適切な行為を認めています。この3名には処分や異動が行われているようですが、嘘をついて「やっていない」と開き直った2名には何の処分もありません。嘘をついて逃げ回っている者を絶対に許しません。会社はこの間、組合が不当労働行為を行ったと指摘した管理者だけにしか事情を聞いていません。双方への聞き取りを求めて交渉は中断しています。厚生労働省の指針でも双方から事実確認を求められています。そして、この様な姿勢

は不誠実団交であり不当労働行為です。さいたま運転区分会でも数々の不当労働行為が積みあがってきています。職場と連携して申し入れを検討します。

2024JR総連春闘は、各支部のメッセージ行動や本部激励行動を組合員と未加入者と共に取り組んでいます。地本春闘総決起集会に最大限の結集を創り出します。会社の収益状況は好調に推移しています。一方職場では、企画業務があつて非番で帰れない、何度も休日出勤の電話がかかってくる等、過去最高の働き度とされています。

社長は新年のマスコミインタビューで「ベアは昨年並みかそれ以上」、それには生産性向上が不可欠」と述べています。また経営陣が盛んにアピールしている「経営のパートナー」の社友会は、相変わらずのお願い運動です。明らかに会社の意図で作られた社友会では賃上げは勝ち取れません。春闘と夏季手当の同時期議論ですが、会社はベアも定期昇給も夏季手当も一緒くたにして賃上げを演出しようとしています。ベアと定期昇給の議論を深め、騙されない労働者になりましょう。夏季手当については年間6ヶ月ベースを求めて、賃金交渉とは別に申し入れていきます。私たちが2024JR総連春闘をけん引し、北海道や貨物に波及できるようにしていきます。そしてレールの後はバス関東本部・ステーションサービス協議会の交渉が大詰めを迎えます。支援・連帯するたたかいを共に創り出し

ていきます。24春闘を通じてベア要求満額と組織の強化と拡大を勝ち取りましょう。

組織強化・拡大の取り組みとして、昨年の地本大会以降7名の組織拡大を勝ち取ってきました。職場での地道な関わりや拡大に特化した場づくり、実践と議論を積み重ねてきた成果であると感じています。宮総支部と小金井運転区分会から、教訓的な発言がありました。職場の実態でやり方は違いますが、東労組運動をいかに職場で進めていくのが重要です。前例に捉えられない斬新な発想で大宮地本の1000名組織実現に向けて決起しましょう。

宇都宮運転区分会の仲間は、懲罰的日勤教育により未だに職場復帰できない組合員と家族に寄り添い、労災申請のたたかいを創りだし、現在全国の仲間がこのたたかいを広めています。発言にあつたように打って出た仲間が非常に高まり、組織拡大も勝ち取っています。非常に大きな成果です。現在、団体交渉は継続中ですが、当該組合員の職場復帰を地本の総力を挙げて取り組んでいきます。

3月のダイヤ改正で埼京運転区と武蔵野運転区が発足し、他支社へ多くの仲間が異動になります。東京と八王子の地で組織をつくるために決起した仲間がいます。大宮に残る仲間は、打って出る仲間を支えると共に、今までの上の決意を持って、組織強化・拡大に邁進しましょう！

定期委員会をリードした議長団



浦和支部・新村委員 宮総支部・小泉委員

発言された11名の委員

(順不同・敬称略)

- 宇都宮：伊藤・阿部
- 大宮：堀江・坂本
- 浦和：中島・前田・高橋
- 宮総：渡邊
- 支部社：小林
- 部会：武井・手塚

委員会宣言

本日JR東労組大宮地本はさいたま市文化センターにおいて第24回定期委員会を開催し、2024JR総連春闘を統一闘争でたたかい、抜き、あらゆる不当労働行為・ハラスメントを許さず組織強化・拡大に向けて全組員でたたかい、抜く運動方針を満場一致で確認した。

私たちは今、歴史的物価高による厳しい生活実感の中、会社施策の進展と組織再編により過去最高の働き度の下で働き、多くの仲間から悲痛な叫びが寄せられている。一方、コロナ後の旅客流動回復に対し安全輸送の確保に努めた結果、第3四半期決算は全セグメントで大幅な増収増益を達成した。私たちは一貫して業績回復を成し遂げてきたが、この間の賃上げは物価上昇に満たず、定期昇給や期末手当もカットされ、働き度にも全く見合わない賃金に対し、多くの不満の声が出されている。このような職場の努力に報いない経営姿勢を打ち破り、安心して働き暮らすことのできる賃金の実現を目指し、JR総連の仲間とともに統一闘争としてペー12000円・定期昇給(昇給係数4)の完全実施をはじめとする要求実現を目指し2024JR総連春闘をたたかい、抜く。勝利に向けて全職場で議論を積み上げ、さらなる組織強化・拡大を実現していこう!

現在職場では、会社の一方的な経営姿勢の下、「融合と連携」や「稼ぐ」を合言葉に施策最優先の業務運営・人事運用が進み、上意下達の指示命令系や「社員化」「意識変革」の徹底により職場風土が大きく変えられようとしている。そして多くの不当労働行為やハラスメントが発生し、異常な職場実態が明らかになっている。これらの事象に対して、怒りを持った実践的発言が今委員会の中で多く出された。大宮運転区での不当処分や、宇都宮運輸区でのパワハラ労災に対して、職場で真実を広げることで組合員や未加入者からも多くの怒りの声と共にたたかう決意が出されている。また、組合脱退の不当労働行為に対しては、真実を掴み明らかにすることで団体交渉と連携した職場からのたたかいを積み上げてきている。そして「ジョブローテーション」施策や組織再編に伴う異動では、本人希望を尊重しない発言が強行され、病欠を余儀なくされる方や簡易苦情処理申請が多発する中で、仲間にも寄り添ったたたかいを創り出してきた。

会社による「命令と服従」の職場風土を許さず、人間性を否定し労働者をモノ扱いする剥き出しの経営の論理に労働組合として立ち向かい、ハラスメントや不当労働行為、事実をねじ曲げた不当処分を許さずたたかい、抜いていく。

いま各系統で事故・事象が相次ぎ、安全が危機に瀕している。「安全計画2028」では、「安全はトッププライオリティ」「想定外も想像し安全を先取る」とされているが事故の連鎖は止まらず、1月23日に東北新幹線で大規模な停電・感電事故が発生した。事象の背景には要員、教育・訓練など深刻な問題があり、もはや「想定内」のリスクにも対応できていない。営業職場では、複数担務や企画業務による負担増大と要員不足が常態化し、職場は疲弊している。私たちは今こそ「命」を最大の価値基軸とし、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を再確立し、職場の声を基軸に「新たな施策に対する5本柱」の視点から施策検証のたたかいを創り出さなくてはならない。

私たちはこの間多くの職場で実践を積み上げ、大会以降7名の拡大を勝ち取った。各機関で組織的議論を重ね、未加入者に寄り添った組織の運動へ広げてきた成果である。仲間の実践を自らのものとし「自分にとっての東労組」を明確にして相手に真剣に向き合い、組織拡大実現に向け全組員で実践しよう!

ウクライナやガザ地区での戦闘行為が止まらない中、岸田政権は軍備強化を推進し、沖縄では辺野古米軍新基地建設が強行されている。戦争で犠牲になるのは労働者であり、私たちは一貫してあらゆる戦争政策に反対してきた。今こそ美志会と平和を希求する仲間と共に憲法9条を守り広め、平和な社会の実現を求めて行動しよう。

大宮地本は「抵抗とヒューマニズム」の精神で、職場の努力に報いない会社姿勢を打ち破り、あらゆる不当労働行為・ハラスメントに抗するたたかいを創りだしていく。仲間との議論や実践を通じ組織強化・拡大を全組員で推し進め、2024JR総連春闘の勝利と、「安全・健康・ゆとり」ある職場を全組員で創り出そう!

以上 宣言する。

2024年2月18日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部
第24回定期委員会

無料



法律相談

□4月9日(火)

□13:30~15:00

場所：大宮地本
会議室

相談日の5日前までに、地本又は各支部へ連絡して下さい。

お気軽に相談を!

3月期退職者

大変お疲れさまでした(敬称略)

石田 義人 保全科

菱沼 吾郎 小山運輸区

根岸 智昭 さいたま運転区

3月期退職者激励会(3月22日開催予定)の
写真は4月号に掲載します

2月期退職者激励会

大変お疲れさまでした(敬称略)

内田 均 さいたま運転区



2月22日 大宮地本会議室

3月15日、申19号緊急申し入れを提出!!

24春闘要求実現に向け、たたかいを継続中!!

3月8日、申15号・16号交渉にて、定期昇給の実施、「所定昇給額と同一の額及び4,000円」を加える基本給改定の実施、エルダー社員の基本賃金に6,000円を加える賃金改定の実施、夏季手当については、基準内賃金の2.7ヶ月分とする回答を受けました。ペーは昨年を上回るものの物価上昇に満たず、過去最大の格差が発生し、夏季手当は、営業利益が昨年比279%増加する等大きく好転しているにも関わらず、僅かな増加に留まる内容です。

回答に対し職場からは、「労働実感・生活実感に見合わない」「社員を大切にしていない」「離職に歯止めがかからない」「法人税優遇や世間体第一の姿勢」等の声や、経営姿勢に対する不満・不信の声が多く挙げられています。

本部は職場の声を受け満額回答を強く求め、下記の通り申し入れを行いました。

- JR東労組申15号「2024年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」に対する回答の「1 新賃金」(1)基本給改定及び、(3)基本賃金改定の回答を撤回し、以下の内容を実施すること
 - 4月1日以降のJR東労組組合員・社員の基本給を一律12000円(定昇を含まない)引き上げること
 - 4月1日以降のエルダー組合員・社員の基本賃金を12000円引き上げること
- JR東労組申16号「2024年度夏季手当に関する申し入れ」に対する回答の「2 夏季手当」(1)基準額の回答を撤回し、2024年度夏季手当を基準内賃金の3.2ヶ月分とすること



私たちは会社回答に納得していません!!



職場の努力に報いない経営姿勢を打ち破り、要求実現と組織強化・拡大に向け、さらなるたたかいを創り出そう!